

甲陽学院中学校

算数

算数と国語は 2 日間にわたって試験を行います。算数については、両日とも結果のみを答える問題 1 題（小問 2～3 問）と記述の問題 5 題を出題してきました。いずれも時間内に全問解答するには、かなりの計算力や、考えを組み立てる力を必要とします。結果のみを答える問題以外は、解答欄に結果を記入するだけでなく、その結果を導いた道筋がわかるように計算過程などを書いておいてください。結果が間違っている場合でも、部分点を与えることがあります。定型問題に正解することはもちろんですが、日ごろから推理し予想することを心がけてください。平面や空間の位置関係を想像することも大切です。

国語

1 日目、2 日目とも、従来どおりの出題となります。記述問題は思考力を問う内容であるとよくいわれますが、問いのなかには基礎的な知識を問う問題ももちろんあります。したがって、その準備もきっちりとしておくべきでしょう。また、得点を積み上げるためには、読み取ったこと、考えたことを上手に伝達・表現する力が必要です。ふだんから他者がどう読むかという視点での答案作りを心がけましょう。

理科

朝永振一郎博士（1965 年ノーベル物理学賞受賞）のことばに次のようなものがあります。

「ふしぎだと思うこと　これが科学の芽です　よく観察してたしかめ　そして考えること
これが科学の茎です　そうして最後になぞがとける　これが科学の花です」

理科の勉強はこのことばに尽きます。教科書の内容はもちろん大事ですが、日ごろから身の回りのこと、ニュースなどをはじめ、森羅万象に目を向けることを心がけましょう。初めて出合ったような問題でも、必ず糸口やヒントが隠されています。問 1 がわからなくても、問 2 は答えられることもあります。部分点をつけることもあります。問題全体を見渡す冷静な目を持つことを忘れないでください。

清風中学校

算数

算数は日程によって 4 種類の問題がありますが、問題の構成や出題分野についてはすべて同じ形態をとって、易から難へと細かく設問を設定して、実力差がきちんと反映されるように配慮しています。文章題は比較的長文が長いのが特徴で、問題文をしっかりと読んで内容を正しく理解する力が要求されます。図形に関する問題は、典型的な問題を中心に過去問をよく研究しておくといでしょう。また、数論については、時々難しい問題を出題することもあります。日ごろからよく考える習慣を養い、柔軟な思考力を身につけるように努めてください。

国語

文学的文章・論理的文章の読解問題では、文章をていねいに追いかけて、内容を正しく読み取る力を見ています。さまざまな設問に対して、本文に根拠を求め、正しい選択肢を選んだり、記述したりする練習をしてください。また、文章中の語句の意味を問う問題も出題します。「前期プレミアム・理Ⅲ選抜試験」「プレミアム最終選抜試験」では、文章を 200 字以内で要約する問題があります。文章の骨子を見抜いて、まとめる練習をしてください。

理科

出題に際しては、物理・化学・生物・地学の各分野から偏りのないように配慮しています。加えて、単に知識のみを問うような出題は極力避けて、教科書で扱う範囲を考慮しつつ、科学的な洞察力や思考力を見ることができ問題を出題するように心がけています。身近に見られる現象に関する問題や実験・観察などを通じたデータの解釈をテーマとする問題などの出題頻度が高くなっています。

社会

基本的な事柄を問う問題が大部分で、地理・歴史・公民の 3 分野からほぼ均等に出题しているので、各分野ともにバランス良く学習してください。また、地図・グラフ・資料などの図版を用いた問題もあるので、日ごろからこれらを意識して見るようにしてもらいたいと思います。問題の難易度が大きく変わることはないので、過去問は必ず解いて出題傾向をつかんでください。毎日、日本や世界で起きる出来事に興味・関心を持って、新聞やテレビなどを見ることも、社会科の学習につながる大切なことです。

東大寺学園中学校

算数

2018年度も、2017年度と同じく大問4構成でした。大問1以外の問題の解答欄には答えを書く欄と考え方を書く欄が用意されています。答えが間違っていたり、最後まで答えを求められていなかったりしても、そこまでの議論が正しければ部分点を与えますので、必ず考え方の欄に図や式などを記入してください。2019年度も試験時間は60分です。まずは過去問をしっかりと学習してきてください。ただ、過去問を学習するなかで大まかな傾向をつかむくらいまではよいと思いますが、分野などを決め打ってしまわないようにしましょう。広くいろいろな分野を学習して入試に臨んでください。算数の入試を通して、受験生の計算を正確に行う力、問題文を正しく読む力、図形を把握する力、考えを論理的にまとめる力などを総合的に判断します。

国語

漢字と語句、論説文、小説（随筆文）の3題構成で出題します（漢字と語句の問題が別々で、4題構成の場合もあります）。漢字と語句については、パズル形式やしりとり形式などの、いわゆる頓知を要する形式での出題はしません。あくまで文中での意味を考えて解くものです。漢字は、ゆっくり、大きく、ていねいに書くように心がけましょう。また、文字の形や骨組みがよくわかるように書きましょう。小説は登場人物の心情を、論説文は論理の展開を、それぞれ把握できているかどうかを見る問題が中心です。50～60字で要領良くまとめる設問や、100字前後でたっぷり記述する設問を必ず出題します。相手にわかりやすく伝えるという姿勢が大切なので、読点をしっかり使いこなす練習も必要です。

理科

6～8題の出題です（2018年度は7題で、物理分野2題、化学分野2題、生物分野2題、地学分野1題でした）。各分野からまんべんなく出題することを心がけています。単なる知識の集積で解ける問題ではなく、知識を利用しながら、図・グラフや説明をよく理解したうえで、考える力を試す問題を出題しています。記述式の設問では、わかりやすい表現を心がけてほしいと思っています。日ごろから自然科学の現象に興味を持ち、新聞やテレビで報道される自然科学に関するニュースにも関心を抱いていると、解法が見いだせる問題もあります。

社会

地理・歴史・公民・総合（地理・歴史・公民の混合）の4題構成で、設問数は50程度です。問題用紙の枚数は、2018年度は8枚に及びました。問題文を的確に読み取る力が求められます。小学校の教科書に基づいて作問していますが、6年生の教科書「下」の内容からも出題します。近年、社会的に注目を集めた時事的事項についても出題することがあります。全分野からまんべんなく出題し、基本的知識が習得できているか、知識を活用する力があるかを試しています。地理分野における図表を多面的に分析する問題など、過去問で傾向を把握しておくといよいでしょう。小学校で習う漢字、歴史的事項や人物名、都道府県名などは漢字

で表記すること。ひらがな表記や誤字は減点または不正解とします。

灘中学校

算数

算数と国語は2日間にわたって試験を行います。算数については、これまで第1日は結果のみを答える問題11～13題を、第2日は記述式の問題を中心に4～5題を出題してきました。2日とも時間内に全問解答するには、相当の学力が要求されます。問題文の長いものもありますから、読解力も身につけておきましょう。式や考え方も書く第2日の問題の答えは、結果しか書かれていないときは、その問題の配点に対し満点を与えることはありません。反対に、結果が間違っているにもかかわらず、説明が途中まで正しいときは、部分点を与えることもあります。答案作りの練習もしてください。市販されている問題集には見当たらない目新しい問題も出題するようにしています。そのような問題にも即座に対応できる柔軟な思考力が必要です。図形問題は、平面はもとより空間図形を正確にイメージする力が問われるものもあります。学校の授業を大切に、日ごろより研究心を持って物事を広く深く究め、理解しようとする努力をしてください。

国語

国語の第1日は、文章問題1題と、主としてことば（漢字、ことわざ、慣用句、外来語、短歌、俳句など）の問題です。基本的なもの、少しレベルの高いものなど、さまざまな形式で出題します。ふだんから意識して正しく日本語を使い、覚えるように心がけて、豊かな広がりを持つ日本語の世界への興味を深めてください。第2日は、文章を読んで内容を考える記述中心の問題で、詩も必ず出題します。文章は世の中のいろいろな現象に対する見方や意見を示しています。作者がどういうことを言いたいのか、何を訴えたいのかを常に意識して読み取ったうえで、出題者の意図に沿って答えることが大切です。主語、述語、指示語や接続語、語の省略などにも気をつけてください。

理科

<ふだんの心がけ>

小学校の授業・教科書を大切にしてください。身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つようにしましょう。簡単に実験できることは実際にやってみましょう。

<入試問題を解くに当たって>

- ・見たことがないような問題でも、考えればわかるように工夫して出題しています。また、どこかで見たような問題であっても、内容はまったく違うかもしれません。
- ・「解き方」や「公式」などの先入観にとらわれず、問題文をよく読んで、その場でしっかり考えてください。
- ・与えられた手がかりによく注意すること、問われていることに応じた答え方をすることがポイントです。

明星中学校

算数

計算問題、文章題、平面図形、立体図形を、毎年できるだけ偏りなく出題しています。答えのみを解答する形式なので、計算ミスや転記ミスに十分注意してください。

国語

前年度より「思考力・判断力・表現力」を問う、新しい傾向の問題を出題しています。そのほかの出題は従来どおり、説明的文章・文学的文章・漢字の書き取りです。字数制限のある問題では、少なくとも8割以上書いてください。また、字数をオーバーした場合や、誤字・脱字は減点になります。注意してください。

理科

物理や化学の分野の問題は、計算問題もあり、解くのに時間がかかることもあります。できるものから解いていく習慣をつけてください。実験や観察の問題に対応するには、教科書の表・図・グラフも、注意深く見ておく必要があります。

社会

歴史・地理・公民の3分野からまんべんなく出題しています。いわゆる“用語”“語句”を覚えることに終始することなく、地図やグラフ・統計などを注意深く見ることに加え、現在の社会および世の中の動き、つまり時事問題にも関心を持ってください。

洛星中学校

算数

計算力をしっかり身につけてください。いつも出題するような計算問題を速く正確に解けるよう、日ごろからよく練習しておいてください。つるかめ算、和差算、ニュートン算といわれるような、解き方の筋道に一定の定跡のある問題も出題することがあります。目新しさはなくても、限られた時間内にきちんと解答することはけっして簡単なことではないので、よく準備しておいてください。割合の問題の考え方は、小学校の算数のなかでも極めて大切なものです。速さの問題などを通して、割合の考え方をしっかりと身につけてほしいと思います。式を書くことによって、考え方の筋道を整理していくことができます。日ごろから答えだけではなく、式を書くように心がけてください。問題に応じて、臨機応変にいろいろと工夫することは大事なことです。一度解いた問題でも、どうすればもっと上手に解くことができるかを考える習慣をつけましょう。

国語

読解と表現との二本柱を立て、長文をじっくり読み通すこと、みずからの考えを記述して答えることを重視しています。小説の主人公の人物像や行動を読み取ることは、読者であるわたしたちの生き方や経験にかかわっています。日ごろから小説など数多くの文章を読むなかで、人の心の動きや考え方について学ぶようにしてください。漢字の書き取り問題では、残念ながら、字体の乱れた、読めない字を書く人がいます。正確に書けるよう、文字の形をきちんと意識して、ていねいに書く練習を怠らないでください。正確でない文字には点数を与えません。選択肢問題、とりわけ内容読解の問題では、傍線部の周辺の数行程度しか見ないで、答えている人が多いようです。どの問題を解くうえでも、全文をしっかりと読み通すことが基本になります。記述問題では、読むことに十分な時間をかけて、ていねいに考えて書いてください。特に、字数の多いものは、読み取って考えたことを自分のことばで存分に書いてほしいと思います。傍線部の前後だけ読んで引用で済ませたり、自分勝手な思い込みでストーリーを作ったりしてはいけません。記述問題の配点は全体の半分以上を超えることもあります。自分のことばで書いて表現することをよく練習してください。それには文章を自分の頭と心とでしっかりと読み通すことが絶対必要なのです。

理科

基本的な用語や法則、ものの名称や数値などはしっかり覚えてうえで、それらを使って説明や計算ができるようにしてください。教科書に出てくる実験や観察は、結果を暗記するだけでなく、器具・方法・条件などにも注意し、なぜそうなるのかを理解するようにしてください。また、学習した内容は、現実の身の回りで起こっている現象と関係づけて理解するようにしてください。図やグラフは、正確に読み取るだけでなく、かくこともできるようにしてください。理科以外の教科などの学習活動を通じて学んだ知識も、理科の学習に応用したり、関連づけて理解したりできるように、大きな幅を持たせた勉強をしてください。新しいことを知る、わからなかったことがわかるようになる、解けなかった問題が解けるようになるということは楽しいことです。その楽しさを失わないで、常に興味を持って理科を勉強して

ください。

社会

知識をきちんと身につけるといことは、単にたくさん覚えることではなく、それぞれの意味をしっかりと理解していくことです。人名などもいろいろな事柄と関連づけて覚えれば、おかしい混同や誤字はなくなります。6年生の教科書には最後まで目を通しておいください。本文や設問文を正確に読み取ってほしいと思います。記述すべき解答のポイントを正確に押さえるうえでも、国語力が必要です。なお、漢字で書ける部分は、できるだけ漢字で書く努力をしてください。

六甲学院中学校

算数

毎年、A日程・B日程とも同じ形式で、基本から応用まで幅広い分野から出題しています。六甲学院中学校に入学するには、少なくともこれくらいは解けてほしいという問題です。算数で高得点を取るには、問題文をよく読み、問われている内容を正しく理解して解くように心がけましょう。少し複雑な問題文になると、たちまち混乱してしまう受験生がいますが、慌てると不注意による計算ミスが生じるものです。入学後に数学が得意になるためにも、問題文を正確に読み取る練習を小学生のうちから身につけておいてください。また、両日程とも7から9の大問は、答えだけでなく、式や考え方なども書くよう指示しています。問題文で与えられた以外の数値を答案に書くときには、どうやって求めたのか、式や図などを使って説明してください。途中経過が正しく書けていれば、部分点をあげています。逆に、途中の式が書いてあっても、そのつながりがわかりにくい答案では減点しています。問題を解いた後に、答えが合ったらそれでよしとするのではなく、相手（採点者）に伝わるように、ふだんから式や説明をわかりやすく書く習慣を身につけてください。もちろん、大問で答えしか書いてない答案や、作図問題で定規やコンパスを用いて作図していなければ、すべて0点としています。

国語

例年、説明文（評論文）、随筆、物語文（小説）などの文章を偏りなく出題しています。漢字の書き取りと記述式の設問を多く出題しているため、「書く」練習をしっかりと積んでください。本文全体の趣旨を問う記述式の設問を中心に、さまざまな設問を配していますが、いずれも文章の内容を深く的確に読解する能力を試しています。ふだんから「確かな読解力」を身につけるように努力してください。また、長い文を書くときに、「て」「に」「を」「は」の使い方がおかしかったり、主語と述語の対応がおかしかったりする答案が見られます。自分の書いた答案を必ず読み返す習慣を、ふだんからつけておくようにしてください。

理科

2018年度入試では、基本的な知識を問う問題はよくできていました。グラフをかく問題では、点をかく位置が少しずれていたり、指示されていない線を記入したり、指示をよく読んでいない点が気になりました。ていねいに作業をすることはとても大切です。また、文章で答える問題では、説明が足りなかったり、文章のつながりが悪かったりする答案が見られました。筋道を立てて物事を考え、自分のことばでわかりやすく表現する訓練もしっかり行ってください。基本的な勉強を地道に続け、また、難しい問題、面倒な計算などにもへこたれずに粘り強く取り組む「強い心」を養ってください。

大阪女学院中学校

算数

過去問対策をしっかりとやってください。基本的な計算が、短時間で正しくできることを求めます。また、平面図形の面積、立体図形の体積、割合などを幅広く学習することや、変化する二つの数量のグラフを正しく読む力なども試されます。日ごろから、規則性を見つけたり、しっかりと考えたりする姿勢を身につけましょう。算数であっても、ていねいに字を書かないと、減点や不解答の扱いになります。

国語

過去問対策をしっかりとやってください。小説、随筆、評論といろいろな分野の文章を読み、慣れておきましょう。読解のこつは、全体を把握したうえで、個々の問題に当たること。解答する際は約束事に注意してください。漢字も小学校で習う範囲からの出題なので、「とめ・はね・はらい」まで正確に書けるようにしましょう。ていねいに字を書かないと、減点や不解答の扱いになります。また、意味のわからないことばに出合ったら、すぐに辞書を引く姿勢を身につけることも大事です。ことばはすべての勉強の骨となる重要な力を養う宝物です。日本語だからと安易に考えないでください。机上だけで国語の学習をするのではなく、日常生活においても、ことばを大切に用いていくようにしましょう。また、百人一首からも出題するので、親しんでおくようにしましょう。

理科

過去問対策をしっかりとやってください。理科は理系だから必要なわけではありません。すべての学問に共通する探究心や視点を養う科目です。さまざまな分野を、日常生活に照らし合わせながら学習していきましょう。教科書にあるすべての実験・観察の図をよく見ておきましょう。しかも、単なる暗記ではなく、それを見て考える力が試されます。理科においても、ていねいに字を書かないと、減点や不解答の扱いになります。

社会

過去問対策をしっかりとやってください。地理・歴史・公民と幅広く出題します。小学校で習う範囲のものなので、しっかりと覚えていきましょう。学んだことが、これからの自分の生き方にかかわってきます。わたしたちは、過去の情報や身近な情報から未来を創造していくのです。つまり暗記学習ではなく、思考学習を心がけてください。また、ていねいに字を書かないと、減点や不解答の扱いになります。試験中は、焦りがあるのはわかりますが、答案に書かれている文字が読めないために減点されるケースが少なくありません。

甲南女子中学校

算数

基本的な問題が確実に解ける力を要求しています。途中の式・計算や、考え方を表す図には部分点があります。単位を書き忘れた場合、約分をしていない場合、式・計算が必要な問題で答えのみを書いた場合は減点とします。A入試1次とB入試では、教科書の章末問題レベルが解ける力を測っています。A入試2次は、難度を高く設定しています。

国語

例年、文学的文章と論理的文章の長文2題を出題します。文章の正確な読解力を要求し、さらに語彙力や表現力も測る出題をしています。具体的には、紛らわしい選択肢をきちんと読み解くことと、また記述問題も必ず出題するので、記述力も必要になります。誤字・脱字は減点とします。書き取りの漢字については、ていねいに書くように心がけてください。A入試2次とB入試の問題は、A入試1次より難度を高く設定しています。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野から出題し、配点はそれぞれ20～30%になるようにしています。図表を読み取る問題と、筋道立てた説明を求める記述式の問題を数問出しています。用語を問う場合、教育漢字で書くべき用語は正しく漢字で書くように気をつけてください。答えとその理由を記述する問題では、答えのみが正しければ答えのみの点を与え、答えが間違っている場合は0点とします。小学校で習った基本的かつ重要なことを身につけておいてほしいと思います。テレビや新聞などで話題になった科学的な現象、環境問題、科学技術についても理解を深めておいてください。

社会

地理・歴史・公民の全分野から出題し、配点は地理・歴史がそれぞれ30～40%、公民が20～30%になるようにしています。解答は、小学校で学んだ教育漢字を使用して答えることを求めます。その際、漢字の間違いやひらがなでの表記は減点の対象となります。地理では、地図・グラフ・写真などを使用した問題が高い確率で出題されます。歴史は、歴史全体の流れを重視し、全時代にわたった問題を出題するようにしています。公民では、現実に行っている問題について出題することがあります。新聞にも目を通しておいてほしいと思います。どの分野も、基礎学力をしっかり身につけ、身近で起きている出来事にも理解を深めておいてください。教科書の内容がきちんと理解できているかどうかを測っています。

四天王寺中学校

算数

計算力はすべての問題の基本なので、速く正確にできるように、しっかり練習しておいてください。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心がけて取り組むことが大切です。合格点を取るために、計算問題は式を眺め、特徴をつかんでから、落ち着いて計算し、全問正解をめざしましょう。また、小問や大問の①②は基礎的な問題が多いので、日ごろから数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておくといよいでしょう。例年、大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかり読んで内容を十分に把握したうえで、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフやダイアグラムを作って利用したりするなどして、その場で解法の糸口を自分で見いだせるよう、思考力を養っておきましょう。平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返したり、折り返したり、対称性を利用したりするなど、問題によってどこに注目すればよいかを見極められる目を養っておくといよいでしょう。立体図形については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で考えられるようにしておくことが大切です。必要な断面や展開図も自分で描けるようにしておきましょう。本校の過去の問題を見ればわかるように、けっして難問・奇問（小学校の学習指導要領の内容を超える分野）を練習する必要はありません。標準レベルの問題を自分で十分に理解し、納得して解くという勉強の姿勢が大切です。

国語

小学校6年生の話しことばにはない、やや古い文章語や抽象的な概念（モノではない思想・考え）を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。毎日、新聞のコラムを読み、現代社会の問題に関心を持って考えることは、語彙を豊かにするだけでなく、大人の記事に親しむという意味でも、とても有効です。長文問題も出るので、演習をするときには記述問題もきちんと書いて“時間内に”解答する力をつけましょう。問題文が長いということは“具体例→筆者の主張”“登場人物の心情の変化”を読み取る力が要求されるということです。傍線部の近くだけ見て“とりあえず解答する”のではなく、傍線部のことばの意味、設問で求められていることを意識して、時間を計って解答する練習を積むことをお勧めします。また、いろいろな種類の文章を読むことで、話しことば以外の文章語や少し古い言い回しに慣れるとともに、読むスピードも速くなります。文章を読むスピードは、読書量に関係します。ちょっと背伸びした読書にもぜひ挑戦してください。

理科

例年、物理・化学・生物・地学の4分野から、ほぼ均等に出題しています。できるだけ偏ることなく、4分野をまんべんなく勉強してください。本校の入試では、実験・実習の結果を示した表やグラフなどをもとにした問題が例年出題されています。そのような問題では、必ず問題文や図・グラフなどの中に、問題を解く鍵やヒントが含まれています。それらを的確に読み取る力を身につけておくことが必要です。そのためにも、日ごろから問題文を読むときには、注意深く最後まで読み、何が答えとして求められて

いるのかを見抜く力を養っておいてください。また、文章で答えるときは、理科の用語を的確に用いるとともに、ポイントをつかんだわかりやすい表現にまとめることが大切です。したがって、理科で学ぶ重要な「用語」「化学式」「単位」などは正確に理解し、特に用語は正確な漢字で書けるようにしておいてください。さらに、自然や身の回りの科学事象に対して、ふだんから興味を持って観察するとともに、理科で学習した知識が、生活のなかではどのようなところで応用されているかなどにも、関心を持って学習を進めていきましょう。

社会

【地理分野】

地理は、産業別地理と地方別地理に大別されますが、本校ではどちらもバランス良く出題することを心がけています。統計と日本の産業の特色をよく理解しておいてください。

【歴史分野】

日ごろから正確な漢字で書く習慣をつけてください。また、地図を用いた学習も効果的です。「奉公」を「奉行」と誤って覚えているケースが時々見られます。年代整序問題に関しては、ふだんから時期をしっかりと区分しながら、学習する習慣をつけておきましょう。近・現代史も、現在のわたしたちの生活につながる政治・経済・文化といったようにとらえて勉強してください。政治・文化・人物はもちろん、社会経済の動きなども踏まえた学習をしておくといでしょう。

【公民分野】

必ず時事問題を出題しています。ふだんから社会の様子、世界の出来事に興味を持って、いろいろな出来事を整理しておいてください。政治分野では、憲法・三権などを幅広く問うものが多く、「国際関係」や「世界の中の日本」というテーマに基づいた学習もしておくといでしょう。

【全般】

問われている項目が多く、時間内で処理できるようにすることも大切です。ヤマを張るような学習ではなく、基本的な項目を幅広く、正確にまとめておいてください。論述では、自分の考えが相手に伝わるような書き方に注目して学習してください。

同志社女子中学校

算数

教科書の内容を踏まえて、皆さんの応用力を試す問題を出題しています。具体的には、計算問題、数の性質、場合の数、割合、文章題、速さ、変化する量とグラフ、平面図形、立体図形など幅広い範囲から出題しています。特に、分数や小数についての理解を深めておいてください。複雑な計算をしなくてはならない問題もあるので、正確に素早く計算して答えを出せるよう、日ごろから計算練習をしっかりとしておいてください。教科書だけでなく、問題集でしっかりと問題練習をして、力をつけておくことが大切です。前年度と同様に、答えの求め方も書く問題を1題出題します。途中まで合っていれば、部分点も与えます。テスト当日は、約分はきちんとできているか、問題の指示にふさわしい答えになっているかなど、しっかりと確かめて検算をして、答えを正確に書くようにしてください。

国語

例年、文学的文章と説明的文章の両方を出しています。ふだんから小説・随筆・説明文など、さまざまな種類の文章に触れて、文章を「読む」ことに慣れておきましょう。限られた試験時間内に、すべての問題を消化するには、本文を素早く読み、内容を正しく把握する必要があります。そのためにも、日々の読書を心がけてもらいたいと思っています。さらに、わからないことばや漢字が出てきたら、その都度辞書を引いて、意味や読み方を確認する習慣をつけておくとよいでしょう。また、「本文から抜き出して答えなさい」という問題では、たとえ一文字でも漢字の間違があると、正解にはならないので、注意してください。

理科

毎年、理科の四つの分野（物理・化学・生物・地学）から出題しています。単に暗記した知識に頼るのではなく、しっかり問題文を読み、よく考えて答えるという姿勢が大切です。例年、そのようによく考えて解く問題を出題しています。一見、習ったことのないような問題もありますが、問題文をじっくり読めば、これまで学んできたことを応用して解ける問題になっています。また、最近話題になったり、関心が持たれたりしている理科学的な事柄についても、出題することがあります。記号を選んで解答する問いだけでなく、用語を書きってもらう問いもありますので、基本的な用語は正確に書けるようにしておきましょう。また、「漢字で書きなさい」という問いもあります。その場合は必ず漢字で書きましょう。

社会

全般的な傾向は、ほぼ例年どおりです。各分野の配点の割合は、地理分野が3割、歴史分野が4割、公民分野が3割程度です。分野にまたがった出題もあるかもしれません。基本的に、小学校の教科書の範囲から出題するように心がけています。ただし、発展的な内容の問題も含まれる可能性があります。なお、出題に当たっては、複数の出版社の教科書を参考にしています。教科書の本文だけでなく、「図表、地図、年表」などもよく学習しておきましょう。例年、4分の1程度が「語句の記述式の問題」です。そのなかで、漢字や仮名の指定、あるいは文字数の指定がある問題については、指定に従っていない解答は無条件に0点で

す。また、教育漢字以外の漢字を使うものであっても、社会科の基本的な用語や地名・人名については、漢字で書けるようにしておいてください。時事的な問題が出題されることもあります。日ごろから新聞を読んだり、テレビのニュースを見たりするように心がけ、基本的な事項と関連づけて学習しておきましょう。

大阪桐蔭中学校

算数

中学数学を学ぶ基礎となる計算力、日ごろから学習していることが入試本番で生かされるような標準的な問題、さらには柔軟な数学的思考力を問う問題を中心に、また、考える力を測ることができるような問題も出題したいと考えています。特定の分野に偏ることなく、四則演算、工夫計算、特殊算、速さ、割合、比、数え上げ、規則性、平面図形、空間図形など幅広く出題します。論理的に考えて、規則性を見つけるような出題も考えています。

国語

文章の読解力を中心に問います。物語文においては、主に場面の展開に応じて変化する登場人物の心情を読み取る力を、説明文においては、筆者の主張を論理の展開に沿って読み取る力を問います。加えて、記述で答える問題においては、指定字数の制限内で、読解した内容を適切にまとめる表現力を求めます。また、語彙力については、慣用句や故事成語などを含むことばの意味と、小学校で学ぶ教育漢字の範囲内で、漢字の書き取りや読みを問います。

理科

基礎的な知識と理解力、および計算力に加え、設問に提示された実験や記述を正しく読み取り、基礎的な知識に基づいて応用的な内容を的確にとらえる力があるかどうかを問います。物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題しています。作図（グラフ）・計算・記述を要する問題を含むことがあります。また、難しいと感じる問題でも、問題文をよく読んで考えれば解けるように問題を設定しています。思考力・応用力を試す問題ですから、最後まであきらめずに取り組むことが大切です。

社会

地理分野からは、日本の都道府県に関する基本的知識（代表的な農作物、産業、気候、地形など）と、統計や資料を読み解き、解答を論理的に推測できる力を見る問題を出します。歴史分野からは、断片的な知識ではなく、資料なども用いて体系的に歴史を把握する力を見る問題を出します。公民分野からは、時事問題への興味と関心に加え、公民独特の用語についての理解力を見る問題を出題する傾向にあります。

金蘭千里中学校

算数

広い分野にわたって出題しています。日ごろから、計算力、題意を読み取る力、図形を見る力、規則性を発見する力などを養ってください。また、工夫しないと解けないような問題もあり、柔軟な思考も要求されます。ともあれ、過去の問題は、格好の鍛錬の場です。

国語

〈文章の読解力〉読解力の基本は読書によって身につきます。時間を見つけて、いろいろな種類の文章や本をたくさん読むようにしましょう。読むことに慣れれば、読む速度も速くなり、長い文章が出題されても、十分に対応することができます。また、小説・物語に多く触れていくことで、登場人物や書き手の心情を読み取ることもできるようになります。

〈ことば〉ことばの数を増やすのにも、読書は役に立ちます。しかし、ただ読むだけでは力には身につけません。わからないことばが出てきたときには、必ず辞書で確かめるようにしましょう。そして、その意味をノートに記録しておきましょう。面倒だと思いかもしれませんが、そうやって手間をかけたことばは記憶に焼きついて、忘れなくなるものです。

〈漢字〉漢字の力を身につける方法も、ことばの勉強法と同じです。文章を読んでいて、わからない漢字が出てきたときは、すぐに漢字辞典で調べるようにしましょう。そして、ただ見るだけでなく、必ず何度もノートに書いて覚えるようにしましょう。そのとき、「とめ・はね」などの細かいところまで正確に練習していくようにしましょう。また、同じ読み方のことばの使い分けも大切です。それぞれのことばの意味をよく理解して、考えるようにしてください。

理科

理科で使う用語や、自然現象に見られる規則性は、知識として暗記するだけでなく、その意味を理解して使えるようにしておきましょう。日ごろから身近な自然現象に関心を持ちながら学習することが大切です。問題文を正確に読み取る力を養い、計算は正確にできるようにしましょう。また、計算式の意味をきちんと理解して、順序立てて考えられるよう心がけましょう。なお、計算問題は通常、分数・小数のどちらで答えるかを指定します。6年生の3学期に学習する範囲は、考え方などに配慮して問題を作成します。

社会

30分という短時間の割には問題数が多いので、問題文を慎重に読みつつも、てきぱきと解答する必要があります。また、大問の①から始めなくても、地理・歴史・公民のうち自分の得意な分野から手をつければよいと思います。地理では、グラフや地形図の読み取りに慣れておくこと、歴史では、「人物名－業績－時代」をセットで覚えておくことが大切です。公民では、毎年一つのテーマに沿って出題していますが、時事的なことも視野に入れてください。そして、特に指示がなくても、基本的な事項は漢字で正確に書くようにしてください。細かい「とめ・はね」までは見ませんが、乱雑な字は減点することもあります。

高槻中学校

【2019 年度入試】

2017 年度入試から A 日程（土曜日午前）と B 日程（日曜日午後）の 2 回となっています。2019 年度は 2018 年度とまったく変更ありません。A 日程の定員は、男子 110 名・女子 55 名、B 日程の定員は、男子 70 名・女子 35 名です。また A 日程において、英語選択型入試（定員若干名）があります。以下、各教科について出題のポイントを紹介します。

算数

試験では、正確で、高い計算処理能力を問います。典型的な問題を確実に解ける学力も必要です。さらに、文章読解力、および知識を複合的に活用する能力を問う問題を出题します。図形では、平面図形や立体図形を的確に認識する能力を見る問題を出题します。2018 年度入試から、配点の 2 割に相当する記述式問題を 1 題出しています。サンプル問題を学校ホームページに掲載していますのでご覧ください。

国語

漢字の書き取りは、教育漢字の範囲からの出題です。慣用的な表現を中心にした基本的なことばの力を問う問題もあります。また、説明的な文章を正しく読み取る力、文学的な文章を人物の心情に即して正しく読み取る力を見る問題を出题します。与えられた文章の要点、理由や人物の心情を 80 字程度で書く設問があります。

理科

理科においてまず必要なのは、小学校レベルの基礎知識です。文章を読み、そのなかに出てくる新しい事柄を理解し活用する能力が問われます。また、時事問題への興味と関心、自然観察の経験や、小学校で理科の学習に真面目に取り組んだ経験を重視する問題を出题します。さらに、新学習指導要領に基づいた新しい学力観である「思考力・判断力・表現力」を測る問題もあります。

社会

地理・歴史・公民のすべての分野に必要なのが、社会科の基礎的知識とその応用力、思考力です。社会的事象への興味と関心を広く持つことが大切です。また、地図や統計、資料、写真などを分析する力を問う問題を出题します。歴史では、歴史への興味、史料の解釈、文章読解力を問います。時事問題への関心を問う問題もあります。

帝塚山中学校

算数

最初に小問集合があります。ここでの失点は大きな痛手となります。正確で速い計算力を身につけ、確実に得点できるようにしておいてください。また、解きやすい問題から手をつけることも重要です。時間配分を間違えると、試験時間中にすべての問題に当たることができなくなってしまいます。規則性の問題、水の量の変化の問題、点・図形の移動の問題は頻出です。2012年度までは、英数型と特進型の二本立てで作問をしていましたが、2013年度の入試からは英数型に一本化しました。後半の大問に進むほど難度を上げるというのが、1次A、1次B、2次A、2次Bに共通した2019年度の出題方針です。

国語

長文を2題出題します。大問①が評論文、大問②が物語文というのがだいたいの傾向です。評論文、物語文ともに、理想的な小中高校生像を追求しています。帝塚山中学校に入学したら、「思春期にこんなことに関心を持ってもらいたい」「こんな経験をしてもらいたい」という題材を取り上げており、そこには「このような文章を読んで心情的に共感できる子に入学してもらいたい」という出題者の思いが込められています。長めの文章を読む訓練を積み、しっかり長文対策をしておいてください。50字程度の抜き出し問題や、50字程度で説明する問題を出題することもあります。文章中の「それ」「これ」などの指示語にも注意してください。漢字の書き取り、読みの問題は、例年必ず15問ほど出題しています。語彙力を強化し、しっかりと漢字の練習をしておいてください。

理科

問題の難度はそれほど高くありませんが、問題量は多いです。実験・観察問題を出題することが多くあります。さまざまな実験の手順や注意点を再度確認しておいてください。また、実験の結果についても確認しておいてください。動物の形や植物のつくりを出題することもあります。写真や図をよく見て、チェックしておいてください。

社会

重要な地名・事項・人物名は漢字指定となっています。正しい漢字で解答できるよう練習しておいてください。地図帳も出題範囲です。重要な地名の位置を、地図帳を使って確認しておいてください。歴史と地理の融合問題を出題することもあります。時事問題の対策も怠りなくやっておきましょう。

同志社中学校

算数

基本的な事項を確認する問題から、問題文を理解し、思考を積み上げて解答を導き出す力の必要な問題まで出しています。出題形式は例年と同様です。基本的な計算力や学習内容をしっかり身につけてください。また、公式ややり方を丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」を自分で考え、発見する学習を期待します。「1あたり量」(速さ、人口密度など)は「m/秒」、「人/km²」のように、「/」(パー)を用いて表記しているので、注意してください。

国語

さまざまな文章を読み取る力を見ること、小学校で学習する言語事項(文法・漢字など)の知識を見ることを主眼に置いて出題しています。日ごろからあらゆる分野の文章に接して、内容を把握する力を身につけてください。小学校での国語の授業をしっかり受けて、幅のあるものの考え方を身につけてください。

理科

小学校の教科書などの基本的な内容から応用的な力までを見ます。基本事項の暗記やパターン学習にとどまらず、「なぜそうなるのか」を考えられるか、実際に観察されることから学び取っているか、自然に対する興味があるかを確かめるような出題にします。小学校での授業を大切にして、教科書や資料集にある内容をしっかり理解しておきましょう。「なぜそうなるのか」を考えるようにすると同時に、それを応用できるように思考する習慣も身につけましょう。また、自然に接する機会を多く持つことも大事です。

社会

小学校の教科書や資料集にある内容をしっかり理解し、学習しておくことが大切です。日ごろから、ニュースや新聞の話題に触れて、時事問題やさまざまな地域・産業にかかわる出来事、歴史的事象などについて、自分の視野を広げておくとよいでしょう。小学校での授業を大切にする、自分の関心のあることを本や資料で調べてみる、地理や歴史についてのフィールドワーク・社会見学などの体験をしてみる、といったふだんからの心がけが大切です。また、新聞やニュースに関心を持って、今、世界や日本では何が起きているのかを知り、さまざまな課題について自分の考えを持って、日ごろから話してみましよう。

同志社香里中学校

算数

2018年度入試は、前期・後期ともに①は計算問題、②は独立した図形の小問を3問、③～⑤は数量に関する問題、⑥・⑦は図形に関する問題を出題しました。2019年度入試においても、2018年度とほぼ同様の出題形式・問題量・難度で出題します。全受験者平均点が約60点(120点満点)になることを想定して問題を作成します。計算問題に関しては、基本的な計算、分配法則や部分分数などの工夫を必要とする計算、還元算などを出題します。図形に関しては、平面図形・立体図形ともに出題します。また、前期と後期の出題形式・問題量・難度は、ほぼ同程度になるようにします。

合格に向けて、日々の学習においては、以下の点に留意してください。

- ①計算問題は毎日練習し、速く正確に解けるようにしてください。
- ②文章読解力を高め、長い文章題においても正確に状況を分析し、正答にたどり着けるよう心がけてください。
- ③グラフ・図表で与えられる情報を正確に読み取ることができるよう心がけてください。
- ④図形感覚を磨くためには、感覚を用いる多くの経験が必要です。そのために、図形問題では必ず自分で図を描いてから考え始めてください。時には実物を作ってみることも大切です。
- ⑤「2018年度入試のまとめ」で記した難度を参考に、基本問題はすべて確実に解け、標準問題もできるだけ多く解けるように学習してください。

国語

2019年度は、長文2題と、漢字やことばの問題という構成を考えています。前年度の漢字は読み・書きともに、難しい漢字ではないけれど小学生が日常的に使わない語の正答率が低いようでした。日ごろから本や新聞などを読み、意識的に語彙力を身につけるようにしてください。漢字の意味を考えてみることも必要です。また、漢字が雑に書かれていたり、字形が崩れていたりすることがあります。本校では字をていねいにバランス良く書くことも大切だと考えているので、ふだんからていねいな字を書くことを心がけましょう。長文については設問を注意深く読み、何を問われているのか、答えに必要な要素を的確に判断しましょう。要点をとらえる力が求められます。傍線部の前後だけを見て判断することが多いようですが、もっと長い範囲をよく読んで考える必要があります。記述問題では、誤った助詞の使い方や主語・述語のねじれなどにも気をつけて、正しい文章を書くことを常に意識してください。文章の内容を要約したり、自分の考えを簡潔にまとめたりして、文章を書く練習をしておくといでしょう。日ごろから読書に親しみ、限られた時間内で長い文章を読んで理解する力をつけておきましょう。

理科

物理・化学分野では、実験に基づく問題がよく出題されます。教科書で扱われている実験については、しっかりその内容をまとめ、そこで扱われている法則を理解することが大切です。応用問題であっても、法則は変わりません。生物・地学分野では、自然観察に基づく問題が

よく出題されています。問題の図や、観察結果の記述をよく整理し、考えて答えを導く習慣を身につけてください。また、日ごろから身の回りの自然を観察するとともに、時事問題にも関心を持つよう心がけてください。

どの分野の問題でも、その問題は何の法則や性質をテーマとしたものなのかを考える習慣を身につけてください。新出の分野について、また学年をまたぐような問い掛けについて不慣れである傾向がうかがえましたが、問われている中身が何であるかがわかるようになれば、おのずと正解を導けるようになるでしょう。

社会

近年の出題傾向としては、各分野とも基礎的な知識を素直に問うものから、知識と知識を結びつけて理解を問うもの、そしてみずから考える力を問うものまでをバランス良く配分し、出題しています。時事問題については、地理・歴史・公民の分野にとらわれず、毎年何らかの形で出題しています。日ごろから新聞記事などに注意を向けておく必要があります。地理的分野では、基本的には日本の地理を中心にしています。都市名、地形など基礎知識を確実に身につけることに加え、統計などの特徴から答えを導くような発想も必要です。世界の地理に関しては貿易など日本と関わりのある国名や地名、時事問題などの事柄について出題しています。歴史的分野の出題・配点については、「江戸時代まで」と「明治時代以降」とでほぼ均等にしています。いずれかの時代に偏らず、通史的に知識を整理しておく必要があります。また、資料・史料を題材として出題することもあるので、それに対応できるような力をつけておく必要があります。公民的分野については、学習している知識と、現実に身の回りで起こっている事柄とを結びつけて物事をとらえる習慣を身につけ、そこからさらに、「自分であればどのように考えるか」という視点につながるよう、ふだんから心がけてもらいたいと思っています。

奈良学園中学校

算数

大問が 6 題で、最初の 1 題は計算問題、次は小問集、最後の 1 題は規則性に関する問題です。残り 3 題は、図形の問題や速さの問題など、広くいろいろな分野から出します。計算力をしっかり身につけ、標準的な問題を確実に解けるように努力してください。

国語

例年、大問 3 題から成ります。大問①は物語文からの出題で、登場人物の心情や、言動の理由を問うものが中心となり、それらに関して 40～60 字程度の記述問題を複数出題することもあります。解答の形式が選択式・記述式のいずれであっても、解答に相当する内容は本文中にあります。したがって、本文をていねいに読み取り、登場人物の心の動きを把握することが必要です。大問②は、論説文や説明文（あるいは随筆）からの出題です。筆者の主張の内容を問うものが中心となります。こちらもある程度の記述量の問題があります。文章全体を見わたして、筆者が伝えようとしている内容を確実に理解しましょう。大問③は、ことばや漢字に関する問題です。よく目にする表現、耳にすることばなどには、日ごろから注意を払っておきましょう。漢字の書き取りに限らず、解答はていねいな文字で書くことを心がけましょう。誤字・脱字、句読点や文末表現の不備などは、減点の対象となります。

理科

小学校の教科書を十分に理解していることを踏まえて、基礎的な問題から応用的な問題までを出題します。物理分野・化学分野・生物分野・地学分野の出題比率は 2 : 2 : 2 : 1 とします。教科書などでは性質しか述べていないことでも、計算問題として出題することもあります。また、図を描いて答えてもらうこともあるので、ふだんから図や写真などもよく見ておくことが必要です。さらに、教科書にとどまらず、日常の身の回りの理科的な事柄や、新聞などで報道された科学に関するニュースなどにも関心を持つようにしておくことも大切です。

社会

地理・歴史・公民のそれぞれの分野にわたる基本的知識を身につけていること、またそれが単に用語を覚えるだけでなく、理解を伴ったものとなっていることを試す出題をしています。歴史的分野では、単に事項を覚えるだけでなく、歴史的な流れをつかみながら教科書をしっかり勉強しておいてください。地理的分野では、教科書だけでなく地図帳もよく見るようにしましょう。また、新聞やテレビのニュースなどで、最近の世の中の動きにも注目するようにしてください。公民的分野では、教科書を中心として、戦後から現代までの社会問題を学習しておいてください。また、日本国憲法の主な条文にも目を通し、地理と同様、新聞やテレビのニュースから世の中の動きについて学習するようにしてください。最後に、漢字で書くべき用語は漢字で答えさせますので、ふだんから漢字で覚えるように心がけてください。

西大和学園中学校

入学試験作問上の留意点

- ①出題の形式は、本校のこれまでの入学試験問題の形式に準ずる。
- ②問題の構成は、基礎的な事柄から発展的な事項へと掘り下げていくように工夫する。
- ③出題の難度は、平均点を満点の65%前後になるようにする。

【本校で実施する入試】

算数

大問は4題。**1**は日ごろ頃の努力の成果が表れやすい基本から標準レベルの問題を10問程度出題します。分野は計算・逆算、数の性質、場合の数と理論、規則性・速さ・割合などに関する文章題です。**2**は同じく基本から標準レベルの図形に関する問題を5問程度出題します。**3**は**1**・**2**と同分野で、やや難度の高い標準から応用レベルの文章題を5問程度出題します。**4**は調査力、整理力、推論力、表現力を複合的に問う問題を出題します。①迅速かつ正確な計算力に裏打ちされた、確実性の高い、効果的な方法を選択できる能力、②基本的な解法や数理的論法の習得度、③問題の設定や条件を正しく理解し、解答に必要な形に再構築できる能力、④具体的に例を考え、試行を繰り返すことで、問題の根幹となる規則性や原理を導き、正答につなげる能力、以上の4点があるかどうかを見ます。正答率の高い問題でのケアレスミスがなくし、適正な時間配分ができるように練習することが大切です。問題文が長い問題や複雑な処理を含む問題でも、粘り強く、最後まで考える習慣をつけるようにしましょう。

国語

大問3題を出題し、論理的文章・文学的文章などを通して、読解力、語彙力、表現力を問います。漢字の書き取り問題では漢字は崩さず、ていねいに書きましょう。「はね・はらい」がいい加減な場合は減点します。説明問題では答え方に注意すること。「～から」「～こと」など、題意に合わせた文の終わり方にしましょう。記述問題は、首尾一貫した文章を書くことが大切です。誤字・脱字は減点します。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問1題ずつを出題します。配点は、各分野およそ25点ずつです。基本的な知識を問う問題、正確な計算力を試す問題、実験・観察に関する操作についての理解を問う問題、実験・観察の結果や現象に対する考察力を試す問題、時事的な事柄に関する問題を出題します。小学校で学習した内容を十分に理解しているか、思考力や理科に対する興味があるかを確かめる内容にします。出題においては、比較的解きやすい問題から順に並べるようにしています。時間配分をよく考えて、基本的な問題でミスをしないように、解答方法に関する指示を守って解答するようにしましょう。指示どおりでないものは、内容が合っても得点を与えません。約分していない分数や漢字の間違いなどは減点するので、注意が必要です。一問一問ていねいに、特に計算問題では、落ち着いて取り組むことが大切です。

社会

「5年生までに学習する内容（主として地理的分野）」と「6年生で学習する内容（主として歴史・公民分野）」をほぼ同じ割合で出題します。各分野を融合した総合的な出題もありえます。地理的分野では、地図・統計・写真・その他の資料を用いて、多角的に日本や世界の諸地域に関する知識や地理の見方を問います。時事的な問題についても、地図などを用いてしっかり確認しておきましょう。歴史的分野では、政治・経済・文化の各内容について、理解できているかを問います。時事問題と関連する内容についても出題します。教科書の注釈・図表・写真などについても注意しておきましょう。公民的分野では、教科書（小6「下」中心）の該当部分を隅々（注釈・図表・写真などを含む）まで学習しておきましょう。教科書に掲載されていない事項であっても、最近新聞などで話題となり、常識として知っておくべき重要な事象についての出題は十分にありえます。①「社会科」で求められる基礎知識とそれを正確に漢字で書く力、②地図・統計・写真・その他の資料を、多角的な視点で分析する力、③時事問題への興味・関心、以上の3点があるかどうかを入学試験で試したいと考えています。用語に関しては、漢字で解答できるように練習しておいてください。仮名書きは減点になる可能性があります。歴史的分野より、地理的・公民的分野での現代社会の知識で大きな差がついています。

【札幌・東京・東海・岡山・広島・福岡会場入試】

算数

典型問題を通して、標準的な問題を解く力と計算力を見ます。高度な思考力を問う問題を出題するので、問題文を読み取り、いろいろな条件を整理する力をつけてください。

国語

前年度と同様、説明的文章と文学的文章をそれぞれ1題出題します。小学校6年間で習得すべき水準の語彙（表現）、教育漢字をしっかりと練習しておきましょう。説明的文章については、要点を整理し、筆者の主張を正確に読み取って、それを説明できるようにしておきましょう。また、文学的文章については、描かれている情景を正確に読み取り、登場人物の心情や書き手の思いを的確につかめるようにしておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問を1題ずつ出題します。小学校で学習した内容を十分に理解しているか、思考能力や理科に対する興味があるかを確かめるような内容にします。比較的解きやすい問題から並べる傾向があります。配点は、大問1題につきおおよそ25点です。時間配分をよく考えて、基本的な語句を問うような問題でのケアレスミスをなくすことが大事です。解答の方法に指示があれば、それを守って記入しましょう。指示どおりではないもの、約分していない分数や漢字の間違いは減点します。計算問題は、落ち着いた考えましょう。問題演習などで一問一問、ていねいに取り組むことが大事です。物理分野では、基本事項やパターンの暗記にとどまらず、もう一步踏み込んで「なぜそうなるのか」を考えましょう。そして、それを応用することで、深く考える習慣をつけましょう。化学分野でも、実験を通して「なぜそうするのか」「なぜそうなるのか」を考えるようにし

てください。生物分野では、実験や観察を通して、生物とそれを取り巻く自然現象に関する原理や法則を理解する習慣を身につけましょう。地学分野では、語句や数値を暗記するだけでなく、さまざまな現象がどうして起こるのかを考えるようにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。地理的分野では、地図や統計を読み取る力や、社会的事象に関する関心・理解を見る問題を取り入れています。歴史的分野では、政治・経済・文化の各内容について理解できているかを見ます。教科書や資料集の注釈・図表・写真などについても注意しておきましょう。公民的分野では、教科書（小6「下」中心）の該当部分を隔々（注釈や図表などを含む）まで学習しておきましょう。教科書に掲載されていない事項であっても、ここ数年、新聞などで話題となり、常識として知っておくべき重要な事象についての出題は十分にありえます。

雲雀丘学園中学校

算数

中学校で学習する数学に対応できる基礎学力を十分に備えているかどうかを確認するために、標準的な問題を中心に、各分野から幅広く出題しています。さらに、思考の柔軟さが必要な問題も取り入れています。また、文章読解力を重視し、文章題では内容を適切に把握する必要がある問題も出題しています。計算を正確に実行する能力は、算数のあらゆる問題で必要になります。計算練習を繰り返しましょう。特に、かっこを含む式や、分数や小数の交じった式の計算問題では、途中の計算式を残し、計算の過程をたどることができるようにしておくとい良いでしょう。文章題は算数の学習の中心を成すものです。問題集で基本的な問題を偏りなく練習してください。その際、解法のパターンを暗記し、それに当てはめて答えを求めるようなことはせず、問題文をしっかりと読み、内容を把握し、線分図・表・グラフなどを活用して情報を整理し、解答を導く過程をゆっくりと考えるように心がけましょう。図形の問題では、まずは図形の基本的な性質を理解してください。また、図形の公式を定着させておくこと、複雑な小数計算に対応できることも大切です。

国語

大問として、小説と説明文をそれぞれ 1 題ずつ出題します。長文に慣れておく必要があります。漢字・慣用句・文法といったことばに関する問題は、文章中から出題しますが、ことばの問題を独立して出題する年もあります。日ごろからことばを意識して学習してください。また、読解問題は、登場人物の心情や指示語の確認、それらを説明する記述問題などを出題しますが、文章中に必ず解答につながるヒントがあります。ことばをていねいに読み進めていくことを大切にしてください。読みを深める問題も出題しますが、基礎力の組み合わせとなるので、基本的な解答練習を徹底することを心がけてください。

理科

教科書に載っている基本的な用語は、正確に覚えることが大切です。教科書に漢字で書いてある用語は漢字で書いてください。基本事項での得点率と合否との関係は明確に出ています。応用問題については、問題文を読む力が重要です。実験問題を多く出題しているので、実験内容は確実に押さえておく必要があります。物理・化学・生物・地学の 4 分野からバランス良く出題するので、まんべんなく学習するように心がけてください。

洛南高等学校附属中学校

算数

正確に素早く処理できる計算力を身につけることが大切です。毎日の練習で少々長い計算にも耐え得る力を養いましょう。その際に、工夫をすることによって簡単に計算できる方法がないかを考えてください。工夫し、考えながら問題を解くことで、さまざまな問題に対応できる応用力をも身につけることができます。また、文章題を解くときには、論理的な展開を意識しながら、筋道を立てて考えていくことが重要です。自分がどのように考えたかを順序立てて式に表し、ていねいな解答を作るよう心がけてください。

国語

第一に、まとまりのある文章（意見文・物語文）について、さまざまなタイプの問題を出題します。問題をてきぱきと、どんどんこなしていく能力が必要です。第二に、各設問が出題された意図を正確に見抜き、本文に根拠を求めながら解答を正しく選択したり、記述したりする能力が問われます。解答の文末を「…すること」とするか、「…から」とするかを判断する力や、誤字・脱字のないように、ていねいに答案をまとめていく力が必要です。第三に、言語感覚が問われます。ことわざや慣用句、外来語や特殊で味のある言い回しなどについても、ふだんから高い興味や関心を持ちながら文章を読む習慣を身につけてください。

理科

わたしたちの身の回りには、さまざまな自然があふれています。動植物もたくさんあり、いろいろな天文現象、気象現象も起こっています。しかし、ふだん意識してそれらに目をとめることはあまりありません。まずは、身近な自然をおもしろいと感じることができる好奇心を持って、身の回りの物事を見つめ直してほしいと思います。さらに、そのような自然の「しくみ」にも興味を持って、身近なことを題材とした実験結果の図やグラフの読み取り、起こるであろうことの予測、そして計算などができるように、学習を進めていってください。

社会

これまで起こった出来事が、現在起こっている出来事につながっています。そして、現在起こっている出来事がわたしたちの世界をつくっています。ですから、一つの用語をただ暗記するのではなく、その用語の背景や用語どうしのつながりを把握する学習を心がけてください。用語を覚えて終わりではなく、用語の意味や背景、関連する内容をほかの人に説明できるかどうか大切です。史料問題やグラフ・統計問題も出題するので、資料集や地図帳なども見て、これらを読み解くトレーニングも必要です。また、簡単な時事問題も出題します。ふだんから新聞・テレビなどを通じて、最近の日本や世界で起こっている出来事にも広く関心を持つようにしましょう。

海陽中等教育学校

算数

〈出題傾向〉小学校の教科書で学習している内容が基本です。特に、高学年で学習する内容に重点を置いています。基礎的な問題から応用・発展問題まで、まんべんなく出題します。答えだけでなく、考え方も書く記述問題を必ず出題します。

〈答案作成時の留意点〉説明のなかで誤字・脱字があった場合は減点することがあります。

〈対策〉小学校 4～6 年の教科書の内容をしっかりと理解しておいてください。2010 年度以降の入試問題などを参考に学習しましょう。解答だけでなく、解答を導く思考過程を簡潔に書き残す練習を心がけてください。

国語

〈出題傾向〉文学的文章または論理的な文章から大問 2 題を出題します（「長文 1 題＋語彙問題」で出題する可能性もあります）。また、漢字の読み書き、抜き出し、記号問題だけでなく、記述形式の問題も出題します。

〈答案作成時の留意点〉文字は一文字一文字、一画一画をていねいに書いてください。設問をよく読み、条件をきちんと理解したうえで解答してください。

〈対策〉日ごろから幅広い読書の習慣を身につけてください。前後の文脈を読み取って意味を考える力をつけてください。

理科

〈出題傾向〉例年、物理・化学・生物・地学の各分野から大問を 1 題ずつ程度出題しています。基本的な算数を使った計算問題や、記号で答える選択式の問題、文章で答える問題、グラフをかく問題などを出題しています。特別給費生入試も一般入試とほぼ同様の形式ですが、記述問題が若干含まれる予定です。大問数が少なく、発展的な題材を扱う可能性があります。

〈答案作成時の留意点〉計算問題については、「小数第 2 位を四捨五入して小数第 1 位まで」といった問題文の指示に従って解答してください。小学校の理科の教科書に漢字で記載されていることば（特に理科用語）は、漢字で書けるようにしておきましょう。

〈対策〉小学校で学習する基礎的な知識を身につけ、さらに、それを応用する力を養ってください。日ごろから身近な自然現象や、小学生でもできる実験に興味を持ち、なぜそうなるのかを探究する態度を身につけましょう。小学校で行う実験にも積極的に参加してください。

社会

〈出題傾向〉入試Ⅰ・Ⅱは、地理・歴史・公民の各分野から大問 1 題ずつ、特別給費生入試ではそれら 3 分野の統合問題を出題します。地図やグラフ、写真といった資料を使いその内容や背景を読み解く問題がほとんどです。選択式、短答式の問題も出題しますが、やはり中心は論述式の問題です。

〈答案作成時の留意点〉古い（新しい）、北（南）から順に並べる、特徴をまとめる、理由

を説明するなど、問題文にはさまざまな条件が示されています。それらをきちんと読み取り、それに応えるように解答してください。

〈対策〉いつでも世の中に関心を持って生活する（ニュースの現場を地図で確認するなど）ことが社会を得意科目にする近道です。考えながら、確かめながら覚えた知識をどれだけ活用できるか、そのうえで相手に伝えることばの使い方、表現の練習を積むことが大切です。

英語（帰国生入試）

〈出題傾向〉記述式試験と面接試験に分かれています。記述式試験では英検®2級～準1級程度の英文を題材として、主に読解力、大意把握力、語彙・文法力を問います。エッセー問題は、文章の内容に対する自分の意見を1ページ程度の英語で述べる形式です。そこでは、自分の考えを正確に伝える、総合的な英語能力を問います。面接試験では、英語での対話を通して、リスニング・スピーキング力を問います。記述式試験の時間は35分で、5～10分程度を使って英語面接試験を行います。また、保護者同伴の面談もあります。

〈答案作成時の留意点〉記述式試験では、英文の内容や意味を日本語で説明する問題も出題します。わかりやすく、ていねいな字で解答を作成してください。エッセー問題では、自分の意見をより良く伝えるための文章構成を意識してください。面接試験では、志望動機、海外での経験、日本の社会や文化についての考えなど、自己アピールしやすい事柄が質問されます。自分らしく率直に答えてほしいと思います。

〈対策〉日ごろから幅広く英文を読み、その内容を自分なりにまとめる習慣をつけましょう。自分の体験や考えを、英文エッセーでわかりやすく、正確な綴りで表現できる練習を行うことも大切です。会話のなかで自分の考えや体験を表現する練習をしてください。